



TITLE:

外米關税の外米市價に及ぼす影響

AUTHOR(S):

八木, 芳之助

CITATION:

八木, 芳之助. 外米關税の外米市價に及ぼす影響. 經濟論叢 1932, 34(6): 966-973

ISSUE DATE:

1932-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130186>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第

卷四十三第

行發日一月六年七和昭

論叢

租稅賦課機關の問題

法學博士 神戸正雄

利子に關する試論

文學博士 高田保馬

國民所得の分配の型を論ず

經濟學博士 沙見三郎

魚食論

法學博士 財部靜治

時論

思想對策批判

經濟學博士 石川興二

研究

集團に就いて

經濟學士 蛭川虎三

支那國民經濟序說

經濟學士 大上末廣

說苑

外米關稅の外米市價に及ぼす影響

經濟學士 八木芳之助

松江藩の人蔘專賣と維新後の處分

經濟學士 堀江保藏

婚姻率の自律性に就いて

經濟學士 三谷道麿

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

本誌第三十四卷總目錄

（禁轉載）

説苑

外米關稅の外米市價に

及ぼす影響

八木芳之助

從來に於ても穀物關稅が穀價に及ぼす作用を瞭らかならしめんとする實證的研究は屢々試みられた所である。この研究は、通常ある期間に於ける國內市場の穀價の變動と、同一期間に於ける外國市場に於ける穀價の變動とを比較し、兩價格の系列間に關稅額に相當する値開の存するや否やを検することによつて、國內市場に於ける關稅の穀價引上作用を立證せんとしてゐる。獨逸に於ける研究は、輸入港に於ける關稅を賦課されざる外國產穀物の價格、または從來自由貿易主義を採れる英吉利の穀價と自國內の穀價とを比較すること

第三十四卷 九六六 第六號 一二四

とによつて、關稅の作用を検討してゐる。併し吾々の注意すべきことは、ある期間に支拂はれたる價格の幾割が關稅の影響に歸すべきかは之を充分精細に究め得ざる點である。蓋し關稅は穀價決定の諸因子中の一に過ぎないから、關稅の穀價に及ぼす作用を他の因子に基く作用より切離して、確證することは殆んど不可能たるからである。從て今日に於ける關稅作用の實證的研究は、長期間に亘りて穀物價格變動が示す傾向を見し、關稅國の内外に於ける此の傾向を比較することによつて、關稅の作用を検討する程度以上に出で得ない。この認識限界を常に念願に置き、獲得せる結果を過大に評價せざるやう慎むべきである。併し關稅の實證的研究にはかゝる方法上の缺陷あるからとて、この研究の價值を否認せんとするは誤である。從來に於ける研究が、かゝる缺陷を有するに拘らず、充分に評價すべき結論に到達してゐることは、何人も之を疑ふを得ない。

關稅の穀價に及ぼす作用を研究するに際して遭遇す

第一の問題は、如何なる價格を選ぶを適當とするかにある。勿論内外の主要市場に於ける價格を選ぶ外なきも、あまり長期間に亘る平均價格を選ぶときは、毎日に對する價格はその重要さに應じて、即ち當該價格に於て行はれたる取引量を考慮に入ることが不可能になる虞がある。レキシスは「穀物關稅の作用」¹⁾に關する研究に於て、この缺點を免れるために、月々の輸入數量と月々の平均價格とを對比することによつて、價格と取引數量との關係を明かにしてゐる。併しこの方法を以てするも、取引量を考慮することなくして、價格のみを比較するとの批難を克服し得ないのである。

蓋し實際に成立する價格と此の價格によつて取引されたる穀物量との關係は、レキシスの如く月々の輸入數量を以てしては之を知るに由ないからである。故に實際の研究に於ては、假令統計の資料上可能であるとしても、日々の價格を相互に比較するは餘りに煩瑣なるが故に、月平均價格を以て満足する外なく、月々の輸入量を参照する程度に留まるであらう。第二の問題は

外米關稅の外米市價に及ぼす影響

ある穀物（例へば小麥）の品種が多種多様であるために、住々にして比較の根據を失ふ點である。關稅の作用を立證するために、内外國產穀物價格を對比するとは、それ等の穀物が全く同一品質であるか又は殆んど同一品質である場合に於てのみ、意義を有するものである。個々の生産地の自然條件が甚だしく異なる場合に於ては、かゝる同品質穀物產地を發見することは困難である。かくの如くにして同一穀物の各品種に對しては價格關係が異なるから、之を充分に斟酌せざれば、この品種の差異に基く價格の開きを關稅の作用に歸せしむる危險が存してゐる。²⁾

大戰前に於て獨逸の穀物關稅の穀價に及ぼす作用に就て實證的研究を遂げたるコンラード及びレキシスは、³⁾關稅を設けたる獨逸國內の穀價と外國（主として自由貿易國たる英吉利）に於ける穀價とを比較研究し、關稅が設定されたる多年間に於ける兩價格の値開きよりして穀價に及ぼす關稅の作用を確證し、戰後に於てもブルーネは、⁴⁾同様な方法によつて之を立證してゐる。

- 1) Lexis, Die Wirkung der Getreidezölle, Festgabe für George Hanssen 1889.
- 2) Illse Brune, Die Wirkung der deutschen Brotgetreidezölle auf die Preisbildung von Weizen und Roggen in den Jahren 1926-1928. 1930. S. 5 ff.
- 3) Conrad, Die Wirkung der Getreidezölle in Deutschland während des letzten Deceniums (in Jahrbuch für Nationalökonomie und Statistik, 1891) S. 481. Lexis, Die Wirkung der Getreidezölle, 1889, S. 18 ff.

る。反之ルーションは關稅の設定又は引上の前後數ヶ月の穀物の國內價格を比較することにより、關稅の作用を直接に確定せんとした⁴⁾。併しこの方法は充分に正確なるものと云ふを得ない。蓋し關稅の設定又は引上は必ずしも一般に祕密にされざるが故に、穀物商人は關稅の設定又は引上の數ヶ月以前に於て價格の騰貴を豫想し、見越し輸入を試みる場合があるからである。

穀物輸入が關稅設定前に急に増加し、設定後に於て急に減少する場合があるのは、かゝる見越し輸入に基くものである。商人の手中にある在庫穀物は當然穀價の騰貴を抑壓し、在庫品が消費され輸入が正常に復して、始めて關稅の穀價に對する作用が表はれるものである。關稅設定後穀價が直ちに騰貴せざりし事實を基礎として、關稅が外國によつて負擔されたと結論するは早計たるを免れない。故にルーションの採れる研究方法は杜撰たるを免れ難い。

二

獨逸に於ては外國より輸入せらるゝ小麥は、國內產

小麥に比して品質劣らず、寧ろ粘力強き點に於て國內產に優れてゐるから、兩種の間には充分なる代替的消費が行はれ、從て小麥關稅が設けらるゝときは、先づ輸入小麥の價格を引上げ、ついで國內產小麥の價格をも同様に騰貴せしめる作用を及ぼすものである。然るに本邦に於ては内地米と外國米との品質及び風味が著しく異り、外米は内地米に對し到底充分なる代替性を發揮するを得ず、多くの場合に於て外米は無產者によつて内地米の補充として混食さるゝに過ぎない。故に外米關稅が内地に於ける外米市價を高むる作用を有するにしても、直ちに内地米に對しても同様なる作用を及ぼすものであるとは云へない。

この小論に於ては外米關稅が内地に於ける外米市價に及ぼす作用の研究に限るものであるが、從來に於ても河田博士、小林博士、笠氏等によつていづれも綿密に研究せられてゐる⁶⁾。たゞ外米の產地相場に就ては、大正六年一月以前の資料を缺いてゐるから、それ以前に於ては外米關稅の研究に際し、外米の内地相場と産

4) Ilse Brune, a. a O. S. 10 ff.

5) Ruhland, Stellung der landwirtschaftlichen Zölle in den 1903 zu schliessenden Handelsverträgen Deutschlands, 1901, S. 26 ff.

6) 河田嗣郎氏、穀價の研究、小林行昌氏、關稅と物價、笠信太郎氏、米穀關稅調査(大阪自由通商協會、調査叢書五)

地相場とを直接に比較對照することが出来ない。笠氏の研究は大正以後に就て行はれて居り、小林氏は外米の輸入價格を以て產地相場を示すものとして研究せられてゐるが¹⁾。外米の輸入價格(一石建)とは外米の輸入金額を輸入石數で割つたものである。而して當時の外米の内には蘭貢米と西貢米とを含んでゐるから、外米の總輸入金額を輸入石數で割つたものが、蘭貢米の產地相場を示してゐるのか、或は西貢米の產地相場を示してゐるのか之を判斷するを得ない。仍て私は河田博士の研究より暗示を得て²⁾、内地に於ける外米市價と自由貿易國たる英吉利に於ける外米相場とを比較することによつて、外米關稅の外米市價に及ぼす影響を研究することとする。勿論英吉利へ輸出せらるゝ外米と我國へ輸出せらるゝ外米との間には多少の品質の差があり、また運賃にも相違あり、從て價格の間にも多少の相違あるべく、且つ外米の倫敦相場は英吉利の物價によつても支配されることを免れないが、自由貿易主義を採れる英吉利の倫敦市場の外米相場と我國に於ける

外米關稅の外米市價に及ぼす影響

外米相場とを比較することによつて我國の外米關稅が外米市價に及ぼす作用の大勢を看取し得るものと信ずる。

我國の外米關稅は明治三十八年七月一日より設定されたが、當時に於ける外米の内地に於ける月平均相場は、蘭貢米に就てのみ知り得るに過ぎず³⁾、西貢米に就ては明治四十一年一月より⁴⁾、暹羅米に就ては大正六年一月より之を知り得るに過ぎない⁵⁾。

倫敦市場の蘭貢米及び西貢米の各日平均相場は、同市のエコノミストに發表さるゝ毎週の最高價格より之を各月に於て平均して算出し、之を大藏省金融事項參考書に發表されてゐる各月の倫敦宛爲替相場(最高最低の平均をとる)によつて邦貨に換算し、且つハンドレッツ・ウエイト(Cwt)當りの相場を百斤當りに換算して、之を我國内地の蘭貢米相場(百斤當り)と比較する。先づ外米關稅が初めて課せられたる明治三十八年(一九〇五年)の兩者の相場とその値開とを示さう。

- 1) 小林氏、同書、214頁、228頁
- 2) 河田博士、同書、103頁
- 3) 拓殖局、「米」(明治四十四年四月)172頁によれば蘭貢米月平均相場は明治三十三年一月より之を知ることを得る。
- 4) 農務局、農務彙纂第五十三、米に關する調査、大正四年七月、177頁以下
- 5) 商務省、米穀統計(日本ノ部)大正十一年十月刊行、40頁

	倫敦相場 (1cwt當リ)		倫敦相場 (百斤當リ)	我國の相場 (百斤當リ)	兩者の値開
1月	志	片	円	円	円
2月	7	2	4.19	4.60	0.41
3月	6	10	4.01	4.50	0.49
4月	6	9	3.95	4.40	0.45
5月	7	1	4.15	4.45	0.30
6月	6	10½	4.01	4.35	0.34
7月	6	10½	4.01	4.55	0.54
8月	6	9	3.95	4.80	0.85
9月	6	9	3.95	5.00	1.05
10月	7	1	4.14	5.20	1.06
11月	7	3	4.23	5.15	0.92
12月	7	3	4.22	5.10	0.88
	7	2	4.15	4.90	0.75

の開
月値
平均
六ヶ
円
0.42

の開
月値
平均
六ヶ
円
0.92

明治三十八年七月一日より毎百斤六十四錢一厘の關稅が課せられたが、七月以後我國の蘭貢米相場は倫敦相場よりも著しく騰貴してゐる。兩者間の前半年の値開きの平均は四十二錢であるが、後半期の値開きの平均は九十二錢であり、その差額は五十錢である。此の差

額の全部が關稅に基くものとするためには、嚴密に言へば他の事情がすべて同一 (ceteris paribus) たることを要するものであるが、毎百斤六十四錢一厘の關稅は、略關稅額だけ我國内地の蘭貢米相場を引上げ、關稅額の大部分が外米の消費者によつて負擔されたものと云ふことが出来る。

其の後關稅率の改正により、明治三十九年十月一日より毎百斤六十四錢の關稅が課せられたが、四十四年七月十七日から同月二十八日迄、即ち十二日間毎百斤一圓に引上げられ、同年七月二十九日から九月三十日迄毎百斤六十四錢に低減され、十月一日から翌四十五年五月二十七日迄更に毎百斤一圓に引上げられ、五月二十八日から大正元年(同年)十月三十一日迄毎百斤四十錢に低減され、十一月一日より更に毎百斤一圓に引上げられた。今明治四十四年一月より大正二年十二月迄に再三行はれたる關稅の低減及び引上げが蘭貢米市價に如何なる影響を及ぼしたるかを、倫敦相場と比較することによつて検討しやう。

	倫敦相場 (1cwt當リ)	倫敦相場 (百斤當リ)	神戸相場 (百斤當リ)	兩者の値開
明治44年 1月	志 片	円	円	円
2	7 6	4.35	5.55	1.20
3	7 9	4.50	5.60	1.10
4	7 10	4.56	5.54	0.98
5	7 11½	4.63	5.57	0.94
6	8 0	4.66	5.69	1.03
7	8 0	4.66	5.73	1.07
8	8 2	4.75	5.81	1.06
9	8 10	5.14	6.02	0.88
10	—	—	6.47	—
11	9 0	5.24	6.19	0.95
12	8 11¼	5.19	6.11	0.92
大正 1年 1月	8 10½	5.14	6.44	1.30
2	9 7	5.56	7.00	1.44
3	9 9½	5.68	7.05	1.37
4	9 8½	5.62	6.95	1.33
5	9 9½	5.70	7.06	1.36
6	10 3½	5.98	7.05	1.07
7	11 3	6.54	7.11	0.57
8	12 3	7.12	7.74	0.62
9	11 10½	6.90	7.16	0.26
10	10 6½	6.14	6.63	0.49
11	9 6½	5.54	6.90	1.36
大正 2年 1月	10 1	5.82	7.25	1.47
2	9 11	5.74	7.52	1.78
3	9 2¼	5.36	7.48	2.12
4	8 8	5.05	7.17	2.12
5	8 3	4.83	6.80	1.97
6	8 9	5.11	6.60	1.49
7	8 10	4.94	6.61	1.67
8	8 4½	4.87	6.50	1.63
9	7 10	4.56	6.31	1.75
10	7 11½	4.62	6.00	1.38
11	8 4	4.82	6.21	1.39
12	8 3	4.77	6.38	1.61
	8 0	4.63	6.11	1.48
	7 10½	4.58	6.02	1.44

關稅 (百斤
64錢) 但し 7
月に 12日間
1圓
8ヶ月値開
平均
円
1.03

關稅 (百斤
1圓) 8ヶ月平均
値開
円
1.22
5月27日迄

關稅 (百斤
40錢) 5ヶ月
平均値開
円
0.66

關稅 (百斤
1圓) 14ヶ月平均
値開
円
1.66

右表よりして外米關稅による内地外米市價の引上作用を明に看取し得る。明治四十四年一月から九月三十日迄の期間は七月の十二日間を除き、毎百斤六十四錢

てゐる。併し我國に於ける蘭貢米相場の騰貴は關稅引上額の全額に及んでゐないから、關稅の一部分は輸出國の商人や產地生産者によつて負擔されたものであら

の關稅を課せられたるが、倫敦相場と神戸相場との平均値開きは一圓三錢であるが、十月一日から翌年五月二十七日迄關稅は毎百斤一圓に引上げられたるが、この期間倫敦相場も漸騰せるが、神戸相場が更にそれ以上に騰貴し、兩相場の平均値開きは一圓二十二錢に増加し、關稅引上の作用が明に現れ

う。四十五年五月二十八日から十月三十一日迄關稅は
每百斤四十錢に低減されたが、兩相場場の平均値開きは
六十六錢に縮少し、從て關稅引下の作用が明に現はれ

試みたと同一の方法によつて、その神戸相場と倫敦
相場とを比較することによつて、外米關稅が西貢米市
價に及ぼす影響を觀察しやう。

てゐる。大正元年十一

月以後關稅は百斤一圓
に復舊されたが、倫敦
相場は漸落し、神戸相
場も亦漸落しつつある
が、その程度は前者よ
り遙に緩にして、從
て兩相場場の平均値開き
は一圓六十六錢とな
り、神戸場が關稅の
引上額だけ騰貴し、内
地消費者の負擔に歸し
た事が明らかである。
次に西貢米相場に就
ても蘭貢米相場に就

		倫敦相場 (1cwt當り)	倫敦相場 (百斤當り)	神戸相場 (百斤當り)	兩者の値開	
明治44年	1月	志 斤	円	円	円	關稅 (百斤 64錢) 但し 7月の 12日間1圓 8ヶ月平均 値開 円 0.79
	2	7 4 $\frac{1}{2}$	4.29	5.24	0.95	
	3	7 9	4.51	5.31	0.80	
	4	7 11 $\frac{1}{4}$	4.61	5.36	0.75	
	5	8 0	4.66	5.40	0.74	
	6	8 0	4.66	5.35	0.69	
	7	8 0	4.66	5.43	0.77	
	8	8 1 $\frac{1}{4}$	4.72	5.42	0.70	
	9	8 3	4.80	5.69	0.89	
	10	—	—	6.26	—	
	11	—	—	6.10	—	
	12	8 6	4.94	5.90	0.96	
大正 1年	1月	8 11 $\frac{1}{2}$	5.20	6.14	0.94	關稅 (百斤 1圓) 6ヶ月平均 値開 円 1.11 5月27日迄 關稅 (百斤 40錢) 3ヶ月平均 値開 円 —0.14
	2	9 8 $\frac{1}{2}$	5.64	6.79	1.15	
	3	9 5	5.46	6.85	1.39	
	4	10 2 $\frac{1}{4}$	5.91	6.88	0.97	
	5	9 11	5.77	7.02	1.25	
	6	10 7	6.16	—	—	
	7	11 5 $\frac{1}{2}$	6.67	7.02	0.35	
	8	12 10 $\frac{1}{2}$	7.49	7.68	0.19	
	9	13 9	8.00	7.04	—0.96	
	10	—	—	7.42	—	
	11	—	—	6.69	—	
	12	—	—	7.08	—	
大正 2年	1月	8 10 $\frac{1}{2}$	5.15	7.23	—	關稅 (百斤 1圓) 12ヶ月平均 値開 円 1.82
	2	8 8	5.05	7.23	2.08	
	3	8 1	4.73	6.82	1.77	
	4	8 0	4.70	6.60	1.87	
	5	8 5	4.91	6.36	1.66	
	6	7 6 $\frac{1}{2}$	4.38	6.43	1.52	
	7	7 1	4.11	6.34	1.96	
	8	6 7 $\frac{1}{2}$	3.85	6.06	1.96	
	9	7 2	4.15	5.83	1.98	
	10	7 6	4.35	6.10	1.95	
	11	7 2 $\frac{1}{2}$	4.19	6.22	1.87	
	12	7 1	4.10	5.88	1.69	
				5.69	1.56	

明治四十四年一月から九月に至る期間に於て關稅は百斤六十四錢であるが、西貢米の神戸相場と倫敦相場との平均値開きは七十九錢である。四十四年十月から翌四十五年五月二十七日迄關稅は百斤一圓に引上げられたが、兩者の平均値開きは一圓十一錢となり瞭に關稅の價格引上作用が看取されるのであつて、神戸相場は略關稅額だけ騰貴してゐる。四十五年五月二十八日から十月三十一日まで關稅は百斤四十錢に低落されたが、此の期間中九月以降は倫敦相場は品切れのために發表されてゐないが、八月迄の狀況では一月以來の騰貴を續けてゐるが、神戸相場は略同一の水準を保つてゐる。これは關稅低減のために騰貴の勢が抑制されたものと見るべきであつて、八月には倫敦相場よりも遙に低くなつてゐる。從て値開の平均は負十四錢となり、明に關稅低減の作用を示してゐる。大正元年十一月より關稅は一圓に引上げられたが、神戸相場は引上直後の十一月から騰貴し翌年二月から漸落してゐる。倫敦相場も大正二年一月以來引續き低落してゐるから、此

外米關稅の外米市價に及ぼす影響

の期間は西貢米の世界相場の低落期と見るべきであるが、神戸相場は漸落しつつも關稅のために世界市價よりも餘程高く保たれてゐる。此の期間の平均値開きは一圓八十二錢にして關稅の引上全額だけ外米市價は引上げられてゐる。

× × × × × ×

以上に互りて外米關稅が内地に於ける外米市價に及ぼす作用に就て、自由貿易國たる英吉利の倫敦相場と比較しつつ検討した。外米關稅が内地に於ける外米市價を引上ぐる作用を有することは右によつて疑ひのない所であつて、外米市價は關稅の大部分だけまたは關稅額だけ高まるものである。外米關稅は歐洲戰後に於ても尙ほ同様なる作用を外米市價に及ぼすものであるか、また外米關稅は内地米價格に對して如何なる作用を及ぼすかに就ての私の研究の結果の發表は之を他日の機會に譲ることとする。